

①避難時の連絡体制の確認

自宅の様子



地震により自宅が停電。
訪問看護及び相談支援専門員へ連絡し、避難について相談する。

(連絡体制)
相談支援専門員
↓
佐伯区災害対策本部
↓
福祉避難所(鈴が峰)

福祉避難所の様子



②避難時の準備物の確認

準備物を確認、避難する体制を整える。



酸素ボンベや吸引器等は、大きなカバン(3つ)に入れて準備。(バギーは玄関外)



③福祉避難所への避難(移動方法等の確認)

荷物持ち役がバギーを降ろす



母、ヘルパー、訪看で、要支援者を車まで移動。

出発前に地域の見学者(連合町内会長、民生委員)と挨拶を交わし、交流。



④避難先での電源確認(開設準備含む)

自家発電により、停電時でも電源供給が可能なコンセント



人工呼吸器使用者が避難するとの情報を受け、電源が確保できるよう準備。

到着後、電源を確保し、療養環境を整える。



⑤避難訓練の振り返り



(主な意見)

○階段を降りる際、呼吸器を持つヘルパーが医療的ケア児の後ろを歩くと、気管カニューレとつながるホース状の呼吸器回路が引っ張られていたので、前を歩いた方が良かった。
○地域の支援者が荷物持ちを手伝う場合、バギーの持ち方や折りたたみ方を事前知っておいてもらおうと良い。
○避難所到着後、施設側の事前の準備のおかげで、電源確保までスムーズにできた。など

⑥マスコミからの取材対応

母への取材



○訓練をやってみないと分からないので、今日はとても良い機会だった。
○災害時、すぐに駆け付けてくれるのは近所の方なので、普段からつながりを大事にしていきたい。

○家族だけで避難が難しい場合に災害が起こった時、どのように家族以外の協力を得ていくか非常に難しい問題。

行政への取材

